

令和元年度第1回小牧市男女共同参画審議会会議録

1 日 時：令和元年7月1日（月）午前10時～

2 場 所：小牧市まなび創造館 多目的室

3 [出席者]

委 員：代田義勝、松田照美、武藤敦子、矢野秀美、伊藤幸子、前田真理子
近藤正司、籠橋幸子、伊熊啓人、廣瀬昌美

事務局：中川教育長、伊藤教育部長、松永教育部次長（社会教育担当）
平岡まなび創造館長、山下まなび創造館事業係長
西まなび創造館事業係主事補

関係課：入江市長公室地域協働担当次長、西村市長公室行政経営課人事係専門員
立松総務部危機管理課長

[欠席者]

なし

[傍聴者]

なし

4 議 題

(1) 小牧市男女共同参画基本計画ハーモニーⅢの推進状況（平成30年度実績）について

5 報 告

(1) 平成30年度小牧市教育委員会基本方針の点検・評価について

(2) 平成31年度小牧市教育委員会基本方針について

1 開会

[平岡館長]

本日は、大変お忙しい中、お集まりいただきましてまことにありがとうございます。ただいまから令和元年度第1回小牧市男女共同参画審議会を開催いたします。

初めに、委嘱状を交付させていただきます。本来であれば、直接お渡しさせていただくところではございますが、時間の都合上、大変申しわけありませんが、皆様の机の上にあらかじめ配付させていただいておりますので、御確認をお願いいたします。

本日の会議は公開となっております。傍聴の申し出はございませんでした。本会議の議事録は、情報公開コーナー等で公開いたしますので、よろしくをお願いいたします。

初めに、教育長の中川から御挨拶申し上げます。

2 挨拶

[中川教育長]

委員の皆様方におかれましては、本日本当に御多忙の中、また足元の悪い中、お集まりいただきましてまことにありがとうございます。

また、日ごろから男女共同参画推進のために、委員の皆様方からは多大なる御指導、それから御協力をいただいております。重ねてお礼を申し上げます。ありがとうございます。

男女共同参画につきましては、社会全体で取り組むべき最重要課題として、国としましても位置づけられているところでございます。本市におきましても、本日御審議いただきます第3次小牧市男女共同参画基本計画ハーモニーⅢ及び小牧市女性活躍推進計画に基づきまして、男女共同参画社会実現のためのさまざまな施策を推進しております。皆様に御審議いただきながら、男女共同参画社会の実現を目指してまいりたいと思います。

本日の会議におきましては、議題1として、小牧市男女共同参画基本計画ハーモニーⅢの推進状況（平成30年度実績）について御審議を賜りたいと思っております。限られた時間ではございますが、忌憚のない御意見、御指導のほうを賜りますようお願いを申し上げます。簡単ではございますが、挨拶にさせていただきます。本日はよろしくをお願いいたします。

[平岡館長]

それでは、本日は第1回目の審議会ですので、委員の方々に自己紹介をお願いしたいと思っております。

代田委員から順によろしく願いいたします。

[委員自己紹介]

[平岡館長]

どうもありがとうございました。

続きまして、事務局の紹介をさせていただきます。

[事務局職員自己紹介]

[平岡館長]

以上、どうぞよろしく願いいたします。

続きまして、審議会の会長・副会長の選出を行います。

小牧市男女共同参画審議会規則第2条の規定により、委員の互選となっております。

ご意見ございますでしょうか。

[松田委員]

前回、審議会の会長を務めていただいた代田委員、副会長を務めていただいた武藤委員に引き続きお願いしたいと思います。

[平岡館長]

ありがとうございます。

ただいま松田委員から、会長を代田委員に、副会長を武藤委員にご推薦いただきましたが、よろしいでしょうか。

[拍 手]

[平岡館長]

それでは、会長は代田委員、副会長は武藤委員に決定いたしました。

ここで会長より御挨拶いただきたく思いますので、よろしく願いいたします。

[代田会長]

先日、女性活躍関連の論文に目を通しておりましたら、その中に女性活用と企業業

績の関係に関する論文がございまして、そこでは正社員女性比率、正社員の中でどれぐらい女性がいるかということですが、その割合が高い企業ほど利益率が高い傾向にあるということが示されておりました。それからもう一つ、その中で中途採用の割合が多い企業や、あるいはワーク・ライフ・バランス施策をしっかりと整えている企業では、利益率へのプラスの影響が非常に顕著であるということが示されておりました。

これは企業においての話ですが、あるいは自治体、地域といった他の組織であれ、もし同様のことが言えるのであれば、やはり女性が活躍できる環境を整備することによって、他の地域や、組織に先んじて、活力ある小牧市につながるのではないかと思っております。

小牧を元気にするという事を考えますと、本審議会が置かれている立場、役割というのは非常に大きいと思っております。この役割をしっかりと果たしていくために、皆様にお力添えいただきながら、しっかりと審議に務めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

[平岡館長]

ありがとうございました。

続きまして、副会長より御挨拶をお願いいたします。

[武藤副会長]

小牧市の特徴というのは、この審議会の場で男性の方の御発言がとても活発であると1年間携わってとても強く感じました。他の自治体や本学では、女性が一生懸命やっているところが本当に多いです。しかし、男女共同参画というのは女性だけ頑張っているだけでもだめで、男女関係なく活発に意見を出し合える環境というのはとても大切だと思います。そういう点から考えても、小牧市のこの審議会はとてもすばらしいといつも感じております。

また男女関わらず活発に御発言いただいて、男女共同参画を進めていければと思いますので、よろしくお願いいたします。

[平岡館長]

ありがとうございました。

それでは議題に移ります。

小牧市男女共同参画審議会規則第2条の規定により、代田会長に取り回しをお願いいたします。

3 議題

(1) 小牧市男女共同参画基本計画ハーモニーⅢの推進状況（平成30年度実績）について

[代田会長]

まず、最初に議題（1）小牧市男女共同参画基本計画ハーモニーⅢの推進状況について、事務局から御説明、よろしくお願いいたします。

[平岡館長]

資料1にありますハーモニーⅢの推進状況報告書の中から重点目標を中心に御意見をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

資料1の推進状況の報告につきましては、基本計画の基本目標、施策の方向、具体的施策の順に、平成30年度事業の事業評価と30年度の課題等、そして31年度の予定事業、数値目標などを記しております。

それでは、まなび創造館の重点目標施策を説明いたします。

資料1の11ページをお願いいたします。

基本目標Ⅲ. 男女共同参画社会の形成に向けた意識改革・教育の推進。施策の方向が、1. 男女共同参画意識の普及・啓発。具体的施策、①男女共同参画推進のための広報・啓発活動の充実になります。

重点目標取り組み内容実績といたしまして、男女共同参画情報紙「かすたねっと」51号と52号を昨年度2回発行しております。9月と2月の広報と一緒に全戸配付いたしました。内容につきましては、LGBTをテーマにいたしました。

続きまして、13ページをお願いいたします。

具体的施策③家庭・学校・地域における男女平等教育の推進です。

子育てに悩む親などを対象に、子育てに大切なポイントをテーマに講座を開催いたしました。講座名は「子育てが楽しくなる「3つのきく」」、「子供の話を聞く」「自分の心の声を聴く」「子供に話を訊く」ということをポイントに開催いたしました。

同じく具体的施策の③で、地域で普及・啓発活動に生かしていただくため、男女共同参画普及員の研修会を開催いたしました。それから、男女共同参画講座を普及員の講座と位置づけて、普及員にも参加いただきました。昨年度、区長会の役員会等で、普及員の選出について依頼してまいりましたが、残念ながら、今のところ今年度は29

区の配置にとどまっております。

続きまして、14ページをお願いいたします。

具体的施策④男女共同参画に関する学習機会の充実につきましては、男女共同参画講座を12講座、男性支援講座を6講座、就労支援講座を3講座、企業啓発講座を1講座など開催いたしました。ほとんどの講座に託児をつけております。今年度から、メールやファクスのお申し込みの受け付けを実施しております。

簡単でございますが、まなび創造館の重点目標施策についての説明は以上です。

事前にいただきました御意見は、資料4のとおりになります。

いただいたご意見について、委員から趣旨等、順にお話しさせていただきたいと思っておりますがよろしいでしょうか。

[代田会長]

はい。1つ目は私からの意見です。

男女共同参画の必要性が各区に伝わらないということがございまして、なかなか普及員が広がっていかないのだろうと考えております。男女共同参画ということ进行全面に出してしまうと、よくわからないと恐らく各地域で感じられているのではないかと思うのですね。

そこで、例えば防災と絡めて、女性の視点が非常に重要であるという身近な問題に引きつけて、普及員の重要性をアピールし、地域に広げていっていただきたいという意見です。

[平岡館長]

ありがとうございます。

今後区長会や役員会などにおきまして、普及員の活動について理解を求めてまいりたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。

なお、普及員の育成については、昨年度、サテライトセミナー「まずはやってみよう！日常生活にアクティブ防災」において、一般の市民の講座と合わせ、普及員講座として位置づけ、16の方に受講いただきました。

今年度につきましても、普及員説明会において、「男女共同参画の地域への理解を深める」というタイトルで、静岡県で地域活動を行っている講師の方をお招きし開催いたしました。

また、危機管理課と共同で、男女共同参画講座「女性の視点を活かして地域防災力UP！」を予定しており、普及員にも御案内をしております。

ほかに、男女共同参画講座「私たちをとりまく経済をやさしく学ぶ ～男女共同参画と経済のつながり～」を現在開催しており、大変好評でございます。

〔代田会長〕

この意見について他によろしいですか。

それでは次の意見にまいります。次も私からの意見です。

なかなか学校で「はばたけ未来へ」を使ってもらえないということで、現在発行しているものは、職業に絡めた内容が中心になっており、将来何になりたいか、職業選択において男女差はないよというメッセージになっています。このメッセージも大事ですが、もう少し小学生が身近に話し合える、かつ切実な問題をテーマにした冊子に変えていったらどうか。そのほうが先生方が使いやすくなると思います。

〔平岡館長〕

ありがとうございます。

「はばたけ未来へ」は、小学校5年生を対象に配付をしており、学校の授業で活用いただくようお願いしております。総合学習や道徳の時間に活用いただいています。8割ぐらいは活用いただいているとアンケートで回答をいただいております。ただ、内容につきましてはおっしゃるとおり、長年この内容で来ているので、そろそろ改訂をする時期と考えておりますので、検討をしていきたいと思っています。以上です。

〔代田会長〕

よろしく申し上げます。

そうしましたら、次も私の意見です。

ウィメンズネットこまきの団体数が減少しているということで、すごく心配をしております。ウィメンズネットができたときは、加入する団体も多かったのですが、その後少しずつ減って行って、年齢層も高齢になっています。ですから、団体をつくることを目的に、講座を一度1つぐらい開催してもいいのではないかと考えているのですが、いかがでしょうか。

〔平岡館長〕

おっしゃるとおりだと思っています。講座毎に呼びかけはしておりますが、なかなか団体ができないのが実情でございます。

昨年度、就労支援講座「人生を変える仕事 ～整理収納アドバイザーになるために～」講座を開催し、結果、同好会ができたのですが、ウィメンズネットこまきの団体加入には至っておりません。また、男性支援講座「割烹職人が教える！！男の和食講座」では、受講生に既存の同好会に加入いたたいたことがございますが、新しく同好会をつくっていくところには至っていない状況です。

そういうこともありまして、今年度からまなび創造館登録団体の登録要件を「10人以上の団体」であることから「5人以上の団体」へと改定しました。今後、登録団体からウィメンズネットにも加入いただくように、さらに進めていきたいと思っております。

また、今年度開催する男女共同参画講座「女性の視点を活かして地域防災力UP！」につきましては、地域で活躍していただくリーダー育成が趣旨でございますので、こちらからも団体ができることを期待しております。以上です。

〔代田会長〕

ありがとうございます。

やはり柔軟に、決まりはあるとは思いますが、対応していくことが大事だと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、次の意見、これはどなたですか。

〔籠橋委員〕

こども政策課のひとり親相談のEメールの受け付け件数が1件だったということについてです。ひとり親の方は働いていらっしゃる方が多く、市役所の就業時間内に相談に来られない方もいらっしゃると思いますので、相談窓口が一つでも多くあるのはすごくいいことだと思います。しかし、どうしてEメールの相談が、ふえないのかが昨年度から気になっていました。相談者の立場からすると、相手がどんな方かわからないのにメールで相談するというのは勇気が要ることで、市役所では難しいかもしれませんが、匿名で相談できますなど、ホームページに一言安心材料になるものがつけ加えられたら、もう少し相談のハードルが下がるのかと思いました。

〔平岡館長〕

ありがとうございます。

この件に関しましてはこども政策課に伝えてあります。

こども政策課では、資格を持った保育士や、相談員として研修と相談を重ねてきた

専門の職員が対応していますので、安心して相談できる体制ではあるのですが、それをもっとPRしていくことを検討するようにお願いしております。

〔籠橋委員〕

ありがとうございました。

〔代田会長〕

よろしいですか。

それでは、次の意見、これほどなたですか。

〔籠橋委員〕

今年度からデートDV手帳の高校1年生への配付を始められたと書かれていましたが、とてもよい取り組みだと思いました。これは、何をきっかけに始められたのですか。

〔平岡館長〕

ありがとうございます。

平成29年度にNPO法人オフィス・マハロに御協力いただきながら、手づくりで作成したものになります。昨年度、高校に少年センター等が配付していた相談カードに合わせて配付させていただきました。

今年度につきましても、女性相談の内容が変わりましたので、その点を修正し配付をしていきたいと思っております。

また、来年度に向けましては、保健センター、少年センター作成の配付カードにあわせて、こちらのものを集約して配付することを今現在、一旦それぞれの課に相談をかけまして検討しているところでございます。以上です。

〔籠橋委員〕

学校のほうから、何かこういうことをやってほしいとか、要望があったわけではないのですか。

〔平岡館長〕

要望があったわけではありません。

〔籠橋委員〕

高校1年生に配布されているので、枠を広げて、他にも中学生や小学生にも内容を変えて配布していただければと思います。

〔平岡館長〕

はい。「デートDV」というタイトルは直接過ぎるので、小・中学生に関してはもう少し内容を検討していきたいと思っております。ありがとうございます。

〔籠橋委員〕

ありがとうございました。

〔代田会長〕

高校側の反応は聞かれていますか。

〔平岡館長〕

特には聞いておりません。

〔代田会長〕

ありがとうございます。

そうしましたら、次の意見、これはどなたでしたか。

〔廣瀬委員〕

本会議の中継を見ていたところ、答弁する職員にとっても男性が多いという印象がありました。

〔代田会長〕

ありがとうございます。

いかがでしょうか。

〔西村専門員〕

議会答弁において、男性が回答する機会が多いので、女性をふやしたほうがよいのではないかという御意見だと理解しました。

こちらにつきまして、資料1の5ページをご覧ください。こちらに働く場における

男女平等の促進の観点から、能力・適性を公平に判断した上で女性職員を積極的に管理職に登用するという目標があります。議会答弁は課長以上の者が担当しておりまして、課長以上の職員については、女性の割合がふえれば達成できると考えておるところでございます。

女性の管理職の登用ですが、平成33年度に10%を目標としておりまして、能力や適性、能力主義ということが大原則でありますので、その辺を踏まえつつ、10%を達成すべく、人事異動をさせていただいています。

資料2の5ページのところに、市職員の男女平等の推進、課長職以上の女性の割合ということで、平成29年度に7.4%だったところ、8.4%、9.3%と登用を進めているところでございます。適性等を踏まえながら、引き続き女性の登用を進めていくことによって管理職がふえて、目標を達成できると考えております。以上でございます。

〔代田会長〕

ありがとうございます。

そうしましたら、次の意見、これはどなたでしたか。

〔廣瀬委員〕

私自身、小学校のPTAの役を今年度やらせていただいています。前年度の引き継ぎの会合で、涙を流されながら、役員がとても大変だった、とても苦痛だったというような引き継ぎをいただいて、それってどうなのかなと思ったのが率直なところです。地域によってはとても長く、ずうっとそこにいらっしゃる方というのが多いところで、新しく子育てするタイミングで小牧にいらっしゃる方は、その地域の方の言う趣旨というのは、そのとおりにしなければならないところはあり、ここはそういう伝統だからとか、人によってはちょっと高圧的に子供がいよいよといまというような価値観を言われたりすると、そこでストレスというか、負荷をすごく感じてしまう世代は実際に存在して、涙を流すぐらい負担をかけているという現状をそのままにしているのかところを思いました。そこは男女共同参画というところを当てはめて、何かできること、対策といいますか、何か考えられることがあるんじゃないかなと思いきこのような意見になりました。以上です。

〔代田会長〕

ありがとうございます。

いかがでしょうか。

〔入江次長〕

区長会を所管していますので、区の活動ということでお話をさせていただきますが、現在市内には129の区があり、それぞれの地域の実情に合った活動が行われているところでもあります。

今お話がありましたように、負担だとか、押しつけというのは、人によって受け取り方は様々であるため、誰にどんな調査を行うか、またどのように確認するかは、それにより、その結果は大きく違ってくるかと思えます。実勢調査などの確認を行うに当たっては、協働推進課だけでなく関係する部署とその方法などについて十分検討する必要がありますと思えます。

しかしながら、協働推進課といたしましては、地域のコミュニティ活動を推進していくに当たりまして、その地域活動における公平性や、男女共同参画について配慮することは大変重要であると考えております。

そのため、区長対象に毎年配付している自治会活動マニュアルにおいて、女性の参画や住民相互の話し合い、認め合いなどについて意識啓発をしているところでもあります。

また、男性・女性を問わず、より多くの方、また幅広い世代の方々に区の活動とか、地域コミュニティ活動に参画していただきたいと考えておりますので、6地区の代表者で構成される、区長会地区会長会において協議・検討するなどして、女性を始めとして、誰もが参画しやすい環境づくりを行政として支援していきたいと考えております。

また、把握はしておりませんが、男女共同参画についての先進的な自治体があると思えます。そこで女性の方を始め、さまざまな人材によって担われている地域コミュニティ活動の好事例もあると思えます。そのような事例を調査研究するなどして、区長会とも情報共有する中で、誰もが担い手になりやすく、女性の参画が増えることを期待するところでもあります。

あと、地域協議会につきましては、小学校区を単位とする住民主体のコミュニティ組織ということで、各種活動団体や地域住民の方々が連携・協力して、さまざまな分野で地域の課題解決や魅力ある地域づくりに向けて、知恵と力を出し合っているところでもあります。

現在、小牧市内には16小学校区があり、本年6月23日に設立されました桃ヶ丘小学校区を含めまして、現在9つの小学校区で地域協議会が設立されております。平成30年度の女性役員の登用状況につきましては、平成30年度は8つの地域協議会の役員の

方々が67名お見えになり、女性の役員が8名で約12%になります。この地域協議会の役員や委員構成につきましては、地域の実情や自主性を鑑みまして、各協議会で決めているところでもあります。これは、誰でも自由に参加できる環境づくりが大切であると考えておりまして、その地域協議会の制度方針においても、区域内の住民全ての方が地域協議会の構成員となり、区域内で委員を公募するという共通ルールを持っているところでもあります。

この地域協議会の活動が持続的なものとなって、地域の活性化につなげていくためには、やはり男性・女性に関わらず、幅広い世代の、多くの住民の方々に参画していただきたいと考えております。この地域協議会活動や事業を市として支援していく中で、女性を始め、多様な人材の発掘や育成にもつなげていきたいと考えております。

また、実際の活動では役員として名前は出ておりませんが、地域協議会が事業を行う際に、部会をつくって活動されていますが、活動者として多くの女性の方々に参加していただいていると実感しているところでもあります。女性の方々は、子育てや介護などを通じて、日ごろから地域と密接にかかわっていらっしゃると思います。その中で、地域での人間関係も構築されていると思いますし、地域コミュニティ活動を行うに当たっての知識だとか、経験などがありますので、さまざまな活動の中でその活躍が期待できると感じております。以上です。

〔伊藤委員〕

市の3あい活動が、母親にとって一番ネックになっていると思います。地区では3あい活動の補助金を得るがために、子供がだしに使われているというのが非常に多いです。

3あい活動について、内容を精査して補助金を支給するようにしていただきたいと思います。以上です。

〔廣瀬委員〕

ボランティア活動で、小さい子供を連れて地域のボランティアに御協力ができたらと伺わせていただくと、最初から子供は御遠慮くださいというところや、見学は来ていいけど、ボランティア活動は子供と一緒に活動できないだとか、様子をみて子供を見られていないみたいだから御遠慮くださいというようなこともありました。

そういう経験も踏まえて、私が今やっているボランティア活動は、お母さんが子供を連れてきても、ボランティアスタッフが見守りするので、お母さんがボランティアに集中してもいいような空間を整えてやっています。世代間で子育て世代のお母さん

に対しての、子どもの監督責任はお母さんというようなところを、全てお母さんに乗つけた上で、でも活動はしてねとか、でも地域には参加してねと、言われるのですが、そこを地域に出ていくのに、地域が見守る体制がないとつくづく感じるところがあります。子どもが小さくても、今までの上の方はやってきたからと言われると、産前・産後や体がしんどくてもやらなければならないところで疑問を感じている声を聞くことがあります。3あい事業も、何か今のおっしやっただと、やらされ感いっぱいなので、本末転倒ではないか思いました。

〔伊藤委員〕

役員することが大変なので、子ども会に参加する人数が減っています。

〔廣瀬委員〕

やらされ感のない3世代交流ができればいいと思い、認知症カフェを実行委員長としてやらせていただいて、望んでそこに集う3世代が成り立っていて、運営するのは勤労世代であるボランティアスタッフですが、おじいちゃん、おばあちゃんたちも、お子さんも、どなたが来てもらってもいいというようなカフェなので、子供は子供であるだけで褒められ、シニアの方は、ふだん接する機会がない小さい子たちと触れ合う風景が継続しています。そういう風景が本来は3世代交流であると感じています。

〔代田会長〕

ありがとうございます。やはり男女共同参画普及員って必要ですね、今の話を聞いていると。男女共同参画普及員は、やはり伝統的なやり方が、いかにそれぞれの、例えば子育て中の女性を苦しめているとかも地域の中で伝えていかななくてはならないでしょうね。

それから、今お話を聞いていて、やはり女性の問題だけではなくて、男性の問題でもある。つまり、男性の地域や家庭への参加度合いが低いところに問題があるという気がします。そこは何らかの形で改善をしていく必要がありますし、働きかけていく必要がありますね。

〔伊熊委員〕

形というか、仕組みはつくったけれども、中身の運用ができていないというケースが多いですよ。そのところに、やはり何か突っ込んでいくということが大切だと思いますね。行政のほうも、中身をしっかりとやる体制をどうしていくかが問題である。

そして、男性も女性もしっかりした考え方を持った人がどう進めるかということだと思います。ところが、今はやり手をどう確保していくのが問題になっています。

[近藤委員]

今までの意見で、我々の区ではちょっと考えられないです。

確かに3あい事業というのは問題があると思いますが、うちの区も無理に11事業やっています。子ども会と一緒に活動していますが、区で活動しているのは高齢者の女性と、子ども会も女性で、夜役員会なんかで子供さんを連れてこないといけない状況です。若いお父さんが非協力的なので、考えてほしいところで、町内でも話しをしています。

うちの区では、運動会を子ども会主催でやっていて、花植えも年2回、その中で交通安全の話も同時にやって、お父さん、お母さん来てくれて、児童公園の草むしりをして、子供たちにお菓子を渡すので、喜んできてくれているという感じです。

ただ、3あい事業に関しては、我々高齢者がみんなで力を合わせて、本当にもうできるかどうかというぎりぎりの段階でまだ今やっている状況で、危機的な状況です。

[伊藤委員]

みんなでお互いに協力し合いながらやるならいいですが、例えば住民運動会でも、7時半にお母さんは準備のために集合してくださいね。8時に子供さんたちを引率してきてくださいねと、両方やるのは無理なので、引率だけでも区の高齢者の方をお願いできませんかという、それはお母さんの仕事でしょうと言われるんです。

[近藤委員]

それはおかしいですね。例えば、テント張りなど全部準備段階は我々役員の男性でやり、子供たちが後から来て、お母さんたちが準備を一緒に手伝ってくれて、お茶とかの準備、お菓子の準備とかを全部してやります。

[松永次長]

3あい事業につきましては、20年ぐらい前から始まったと記憶しておるんですが、皆さんも御存じのとおり、子ども会活動がどんどん減っていくということで、何とか支援ができないか、廣瀬委員が言われたように、ふんわりとお年寄りの活動と子供の活動と一緒にできて、両方がうまく活性化していくことを目指し、この活動が始まっています。

高齢化が進んでいるところや、若いお母さんたちがばかりが活動しているところなど、それぞれの区で違うとは思いますが、委員の皆様と同じような意見は聞こえてきますし、また実績報告を見てもわかりますので、説明会等でお伝えしたりして、少しでも改善ができることがないかと思っています。また、説明会等に出席されたら、ご意見を言っていただくことが大事かと思っていますので、よろしくお願いいたします。

〔代田会長〕

3あい活動の全体の数としては、減ってきていますか。

〔松永次長〕

今、ふえてもいないし、減ってもいないような状態です。

〔代田会長〕

やっている区が、前年度と同じようにやり続けているという感じですか。

〔松永次長〕

そうですね。20年ほど前に当時60歳の方が、20年後だと80歳ぐらいになってもやられているのではないかと思います。工夫されてやられているところもありますので、そんな情報も流せたらと思いますので、お願いします。

〔代田会長〕

特に若い男性が3あいに入って活動しているようないい事例があると、それを全体に周知していただけるとありがたいという気がします。

〔代田会長〕

そうしましたら、6ページ目ですかね。

6ページ目が、防災等の場における男女共同参画の推進についてというところで、ここはどなたですか。

〔廣瀬委員〕

子育て支援のコトトモとして企業さんのCSRの社会貢献と協働という形で、子育て、防災、商品開発会議などやらせていただいている中で、特に子育て目線、女性目線というところで一番足りないのは何か、いろいろ突き詰めて考えたときに、非常時

をリアルにイメージできていないところがまだあるのですが、実際、その配慮がないと本当に困ると思います。

私、今SDGsにちょっと関心があって、いろいろ勉強しているのですが、途上国女の子の生事情というところも、本当に物資が足りなくて、場所もなくてというようなことが起きたりするということを考えたら、もちろん産前・産後もそうですし、生理などの女性のサニタリーは、非常時にその配慮が本当に要るのではないかと思います。

隠しておきたいところを隠せないという空間の中で長くいると、心も体も病んでいく思いますので、非常時の勉強会やワークショップは必要ではないかと思います。また、小さい子供を連れている場合や、多感な時期の女の子、男の子を同伴して非日常を過ごすところの体験の数が多いとよいのではないかなと思って、こういった意見をしました。

[代田会長]

ありがとうございます。

いかがですか。

[立松危機管理課長]

まず、避難所開設時の女性用トイレの増設や女性専用の更衣室の提供が求められることがあります。市では、愛知県の避難所運営マニュアルを参考に、平成29年3月に、学校施設をモデルとした避難所を開設、運営をすることができる手順を示した避難所運営マニュアル、開設運営マニュアルというのを作成しております。このマニュアルの中では、避難所を運営するに当たって、避難所運営の組織の必要性や組織を運営する中にも女性への参画を促しています。

また、そのマニュアルの中で特に留意をする事項として、男女別の更衣室、トイレ、授乳室の設置の必要性についても記載しております。小・中学校に設置をしております防災備蓄倉庫に仮設トイレを2基設置しておりますが、男女別で使用できるようにしております。また避難所となる体育館におきましても、着替え室等が何らかの利用ができない場合には、市内の防災備蓄倉庫、コンテナ倉庫が8カ所で、プライベートルームを備蓄しており、必要とされる避難所へ提供することを現在想定しております。

東日本大震災など、過去の災害で指摘をされた問題の一つに、女性の視点の欠如というものがございました。避難所は、特に男性が中心となって運営する 경우가多く、

女性が要望しづらい環境をなくすために、高齢者、障害者、それから乳幼児を抱えた家族など、あるいは、外国人などの要配慮者の方々のさまざまな意見を吸い上げることが必要で、避難所内に相談窓口を設置して、安心して相談ができる避難所体制の必要性も理解していただくため、平成28年から、市の総合防災訓練では、住民参加型の避難所運営訓練を実施しております。この中で女性や子供のニーズを知っていただき、生理用品や更衣室のスペース、それから授乳室の必要性などに配慮することを多くの人に理解していただくため、今後も引き続き訓練を通して周知をしていきたいと考えております。

2つ目の災害非常時の生理等の女性のサニタリーの問題について深刻だという課題につきましては、市では、平成28年度から地域防災リーダー養成講座というのを開催しており、女性の精神保健や公衆衛生の課題も問題解決の内容も盛り込んでおります。

また、本年度、まなび創造館と共催して実施をしていきます小さな子供のいる家庭や高齢者などを抱えた世代の立場の方で、防災問題について不安などを出し合って、問題解決の糸口を見出す「女性の視点を活かして地域防災力UP！」の講座を企画しているところであります。サニタリーの問題におきましても、大変重要な問題だと捉えており、今後も引き続き、特に防災・減災事業のほうで、防災リーダー会の女性の会員の方の御意見なども伺いながら、運営についても検討していきたいと考えております。

小さな子供と参加・体験できる防災訓練等につきましては、現在市内の保育園や幼稚園において、園児と一緒に、親子対象に移動防火教室というのを消防本部で実施をしているところであり、この教室の内容としましては、地震編と火災編の、2年ごと交互に実施内容を変えて行っています。地震発生時のそれぞれの身の守り方や火の怖さなど、園児がわかりやすいように、腹話術や着ぐるみなどを使って講習を進めています。

また、非常時・非日常の心理状態をイメージできるような避難所体験につきましては、毎年市内の中学校で実施をしております小牧市総合防災訓練において避難所運営訓練を実施しており、中学校区の住民の方に、実際に地震の発生時から、避難所開設・運営の初動期における対応について理解をしていただくために、組み立て式の簡易トイレの設置・設営や、避難所生活において必要となるプライベート空間の確保のための間仕切りパーティションの設営など、一人一人の区画の広さを体験していただくなど、避難所の心理状態を少しでも感じていただけるような訓練を実施しているところであります。

また、あわせて地域協議会を初めとした小学校区で行われる防災訓練においても、

避難所運営訓練を積極的に取り入れていただいて、自助・共助の防災意識の醸成を図っているところであります。

それから、サバイバルスキルの体験学習につきましては、災害時におけるサバイバルスキルという意味においては、今現在、出前講座の中で小牧防災リーダー会の御協力をいただき、「身近なもので作る防災グッズ」という講座を開催しております。この講座の中では、身の回りにあるペットボトルや新聞紙などを使って、避難所生活に必要なスリッパ、あるいはランタン、あるいはトイレなどを作成する講座も開設しております。

また、備蓄食のローリングストックにつきましては、災害時に備えて7日以上 の備蓄を推進しており、水や食料の備蓄に対しては、ローリングストック、いわゆる食べ物を有効に活用しながら、適切に備蓄をしていくということですが、防災ガイドブックや市の総合防災訓練などで紹介をして、周知啓発をしているところでございます。

また、御提案の非常食を活用したレシピ料理や試食などは、市内の飲料メーカーに御参加をいただいて、市の総合防災訓練の防災啓発コーナーで、防災食などを活用したレシピや調理などを検討しているところであります。

今後もさまざまな視点で防災・減災の啓発を実施していくために、消防本部や、市の関係部局、小牧防災リーダー会の皆様と連携を図りながら、災害時における地域の防災力向上を図るために、地域の皆さんのいろいろな要望にお応えできるよう対応していきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

〔代田会長〕

ありがとうございます。

伊熊さんのほうから、何か一言ありますか。

〔伊熊委員〕

親子で学べる防災講座というのは結構ふえてきています。

避難所対策としては食べるよりもトイレのほうが大切なのです。まず体育館へ避難したときに、トイレが使えるかどうかを確認することと、トイレの掃除当番をきちんとつくること、トイレを使用したら、必ずきちんと洗って次の人に展開するとか考えなくてはならないと思います。

やはり自分の身は自分で守る考え方で対応していただくというのが一番。

しかも、今度は女性の立場で避難所を運営することを考えることが必要だと思いま

す。サニタリーや多感な人たちの居場所と、老人の居場所などを先に、場所を決めて
いていただきたいという話もあわせて進めております。

〔代田会長〕

ありがとうございます。

〔松田委員〕

春日井のグループで、生活協同組合と協力して、ガスや火を使わないクッキング、
あるいは、ローリングストックの食料を使う講座などを企画しています。

非常に若い世代の親子の関心が高くて、申し込みをたくさんいただきますが、場所
の関係で、定員の問題やアレルギーの問題があります。

〔廣瀬委員〕

食に関してもアレルギーの人だけ特別ではなく、みんなが食べられるものを、アレ
ルギーの人も食べられる災害時の御飯の企画は、今まで余りなかったと思います。そ
れは要援護者の方、全てをインクリージングしたような内容というか、トイレも、女
性だけではなくて、全ての方に行き届かせる視点での企画は、これからどんどんつく
るほうがいいと思います。

〔松田委員〕

そういったことに対しては、発展段階の状況かと思いますね。

〔伊熊委員〕

市でも、この食品には何が入っていると、徐々にわかるようになってきています。

〔前田委員〕

防災に関することは、地域と、その拠点となる学校とも協力していくことが必要で
あると思います。昨年、一昨年と2年続けて、地域を挙げた防災訓練に中学生も参加
をさせてもらう活動で、最初の年は、地域の方も物すごい人数参加をされ、仮設トイ
レの設置の方法を一から順番にやりました。同じことも、2年目になると手順がよく
わかってきて、随分早くなったと思いました。それから女性の着がえをするための小
さな部屋を体育館につくるにしても、部屋が、こういう素材でできていることをみん
なが知る、知ってやってみると同じことも繰り返しやっていくというのは、やは

り防災を始めるスタートとして、また女性の問題に関してもつながっていくことを非常に感じました。

もう一つは、小さい子ども、女性も、それからお年寄りの方も大変困難なことになる場合を想定したときに、誰に対しても効果的な様々な防災グッズなどを実地体験し、防災訓練を繰り返していく中で、恐らくトイレも、女性のサニタリーも必要であるなど、訓練の中で出てくる課題を、地域の中でも共有し合えてやっていけたら、いろんな目線で作りに上げていける地域防災になっていくのかなとすごく感じました。

一遍に急というのは難しい問題であるけど、同じことでも繰り返すことが大きいと思いました。

〔伊熊委員〕

防災のことを若い世代にどう伝えていくのかは、マニュアルはなかなか読まないの
で、やはり実体験するような体制がないと実際には何もできないと思います。そうい
う点では、小学生も中学生も習得力が早く、よく動いています。

この間、小牧原小学校でお話したときに、避難の仕方「おかしも」という言葉を
児童がみんな知っていました。また、地震の時の「シェイクアウト」というと、すぐ
にしゃがみ、対応できていました。

やはり常に教育していると、つながっていくと思っております。

〔前田委員〕

地域みんなでやれると、それこそ小さい子からお年の方まで、3世代交流になって
いくのかなと思います。

〔代田会長〕

ありがとうございます。

こちらの事前提出意見等を中心に御回答いただいて、議論していきましたが、資料
1のほうでなにかあれば御発言いただければと思います。

〔武藤委員〕

質問です。資料1に男女共同参画の視点をアルファベットで記載してあるものがあり
ますが、これは何がいいのか、どう評価すればいいのかがわからなくて、例えば男
女それぞれの個性を生かすようなものができるのがあるのか、男女について意識しな
くなるのがあるのか、その基準というものがわかりにくく、何を目指せばいいのかと

いうのを御説明ください。

[平岡館長]

これはどの程度推進したかということ各課として評価したことになります。Aですと、男女がそれぞれ個性や能力をより一層できるように努めた（努める）ようにしたことですか、Eに関しては、法令に基づき、男女について考慮した上で実施したという、自分たちの課としての評価を書く基準になります。

[代田会長]

つまり、どれがいいということではなくて、どのような視点が盛り込まれているかということ、それぞれの部署で自己評価したものということですね。どのような点を配慮してとか、どのような点に気をつけて、こういう施策を推進したとか、そういうことですね。

そのほか、よろしいでしょうか。

[挙手する者なし]

4 報告

- (1) 平成30年度小牧市教育委員会基本方針の点検・評価について
- (2) 平成31年度小牧市教育委員会基本方針について

[代田会長]

そうでしたら、報告事項に入りたいと思います。

報告事項の(1) 平成30年度小牧市教育委員会基本方針の点検・評価について、および(2) 平成31年度小牧市教育委員会基本方針についてお願いします。

[平岡館長]

報告資料の1と2をごらんください。

まず報告資料1は、まなび創造館の平成30年度の実績、点検評価シートになります。

具体的な取り組みの男女共同参画講座の実施ということで、2カ所間違いがございますので、訂正させていただきます。

1カ所目が、1ページ目の達成状況の5行目になります。男女共同参画の「13講座」とありますが、下に表がございますように「12講座」の誤りですので、申しわけ

ございません、訂正をお願いいたします。

2カ所目は、3ページ目になります。これも同じく男女共同参画講座等の年度別実績で、男女共同参画講座の30年度が「13講座」となっておりますが、これも「12講座」の誤りですので、これについて訂正させていただきます。申しわけございませんでした。

この点検シートにつきましては、昨年度の最後の審議会で、委員の皆様からいただいた御意見をもとに、課題や今後の取り組みの方向性を4ページ目に記載をさせていただきました。そして、教育委員会の教育振興基本計画推進会議及び評価委員会と。定例教育委員会に提出させていただきましたので、御報告いたします。

続きまして、報告資料の2になります。

平成31年度の小牧市教育委員会基本方針の中から抜粋したのですが、基本目標と豊かな人生を支える生涯学習、生涯学べるまちづくりでは、まなび創造館は、昨年度に引き続きまして、男女共同参画講座の実施ということを上げております。また今年度も3回目の審議会で、委員の皆様から評価をいただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくをお願いいたします。以上です。

[代田会長]

ありがとうございます。

今、報告事項2点について、何か委員の皆様から御意見、御質問等ございますか。よろしいですか。

[挙手する者なし]

[代田会長]

ありがとうございます。

それでは、本日の議事はすべて終了しました。事務局にお返ししたいと思います。

[平岡館長]

長時間にわたりまして活発に御意見いただきまして、どうもありがとうございました。

これをもちまして、第1回小牧市男女共同参画審議会を終了いたします。どうもありがとうございました。